

完了後の評価個表

整理番号 森5-1

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道									
地域(地区)名	標茶町 しべちやちょう	事業実施主体	北海道、標茶町、標茶町森林組合等									
関係市町村	標茶町	管理主体	標茶町、標茶町森林組合等									
事業実施期間	平成19年度～平成23年度（5年間）	完了後経過年数	5年									
事業の概要・目的		<p>① 位置等 標茶町は北海道東部の釧路根室流域の中央部から北部に位置し、酪農業を基幹産業としている。 阿寒摩周国立公園の屈斜路湖を源とする釧路川は、本町を北部から南部にかけて縦断し、それを中心に東西に分けるように酪農地帯が広がり、下流部に南下するに従いオソツベツ川・ヌマオロ川等幾筋もの支流が合流し、釧路湿原国立公園から釧路市に至る大きな流れを作り出している。 北部には西別岳山腹の国有林地帯を源に西別川が別海町へ、南東部には大カラマツ人工林地帯が広がるパイロットフォレストを源とする別寒辺牛川が厚岸町へ流れ出ているなど、下流域住民の生活や産業に大きく関わりを持つ河川があり、森林が重要な役割を担っている地域である。</p> <p>② 森林の状況 本地区の森林面積57,950ha（森林率54%）のうち、民有林面積は34,654haで森林全体の60%を占めている。民有林の人工林面積は12,484ha（人工林率36%）で、樹種はカラマツとトドマツが大半を占め、齢級構成は間伐等の森林整備が必要なⅤ齢級以下の森林が約50%を占めている。 また、地区内の民有林のうち、水源かん養保安林として2,839ha、土砂流出防備保安林として85haが指定されており、森林の持つ水源涵養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 本地区を整備する目的・意義 人工林の多くがⅤ齢級以下で除・間伐等の保育を必要としているが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者等の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、森林経営の基盤となる林道等の路網が不十分であったことから、適切な森林施業の実施や効率的な木材生産に支障があった。 このため、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として、計画的に除・間伐等の森林施業を推進するとともに、路網が必要な森林においては森林管理道の整備を実施した。</p> <p>(事業概要) 森林整備 植栽 621ha、下刈 3,015ha、除・間伐 1,516ha、受光伐等 325ha 作業路整備 7,240m 森林管理道整備 ① シラルトロ線 車道幅員 4.00m 開設延長 3,983m 利用区域面積 805ha 総事業費 1,078,867千円 (当初総事業費 3,954,088千円)</p>										
① 費用対効果分析の算定基礎となつた要因の変化	<p>平成29年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、事業内容の変更や低コスト化に伴い、事業採択時に比べ総便益は増となり、総事業費及び総費用が減となった。</p> <table> <tbody> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td>17,173,911千円</td> <td>(事業採択時 17,027,628千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>3,854,874千円</td> <td>(事業採択時 7,313,550千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>4.46</td> <td>(事業採択時 2.33)</td> </tr> </tbody> </table>			総便益 (B)	17,173,911千円	(事業採択時 17,027,628千円)	総費用 (C)	3,854,874千円	(事業採択時 7,313,550千円)	分析結果 (B/C)	4.46	(事業採択時 2.33)
総便益 (B)	17,173,911千円	(事業採択時 17,027,628千円)										
総費用 (C)	3,854,874千円	(事業採択時 7,313,550千円)										
分析結果 (B/C)	4.46	(事業採択時 2.33)										
② 事業効果の発現状況	<p>① 林道開設により、路網から500m未満となる森林面積が開設前の27%に対して100%となり、開設前は既設公道から利用区域内外森林の中心部まで約3,700mを歩行していたのに対して自動車での到達が可能となるなど、森林へのアクセスが容易となった。 ② 林道開設により、利用区域内外の間伐・保育作業及び適期を迎えた主伐がなされ、整備前は5年間で280haだったが、整備後は348ha実施され、今後も115haの森林整備が計画されるなど森林施業が活性化された。 ③ 本事業で植栽されたカラマツやトドマツの成長は良好で、間伐等を行った箇所は多様な環境を持つ健全な森林として育成されており、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮が期待される森林が整備された。</p>											
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>本事業により開設された林道は、標茶町が定めた林道維持管理規程に基づき管理されている。 本事業で整備された森林は、森林所有者又は森林所有者から經營受託した森林組合が適正に管理しており、下刈り等の保育施業も行っており、整備後の林況や施設の維持管理は良好である。</p>											

④ 事業実施による環境の変化	伐採や植栽、除伐・間伐等の実施面積が前期間と比べ6%増加するなど、森林施業の実施に対する意欲が向上してきている。 森林整備が実施され林内の明るい単層林や複層林、針広混交林が整備され、森林の景観が向上してきている。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流水の流量の減少などの影響は見受けられない。
⑤ 社会経済情勢の変化	林業労働の軽減、森林施業コストの低減が図られ、森林施業の実施面積が開設前と比べ6%増加してきたことから、将来の木材供給源としての期待がより一層高まってきている。 森林整備が行われる一方、本林道を通じて多数の地元住民が山菜採取やハイキング等に森林を利用しておおり、森林に対する理解が深まりつつある。
⑥ 今後の課題等	森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。 (地元の意見) ・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(北海道) ・ 林道の開設後は、沿線の小溪流等への散策へ訪れる者の増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(標茶町) ・ 作業の低成本化や間伐の促進、鳥獣及び気象被害防止等、今後も持続的な森林施業の実施に努める必要がある。(森林組合)
評価結果	・ 必要性： 地元の意見にも見られるとおり、本事業の施工後は、土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与するなど、本事業の効果が発揮されていること。 森林の整備及び基盤となる路網の整備が総合的に実施されていること。 以上のことから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備及び林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。 林道が災害時の迂回路としても機能していること。 森林整備により、森林の景観が向上してきていること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 標茶町
しべちゃちょう

(単位:千円)

大区分	中区分	評価額	備考
水源涵養便益 <small>かん</small>	洪水防止便益	2,834,723	
	流域貯水便益	1,196,474	
	水質浄化便益	2,519,628	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,855,715	
環境保全便益	炭素固定便益	1,498,125	
木材生産等便益	木材利用増進便益	18,123	
	木材生産確保・増進便益	1,741,600	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	509,523	
総便益 (B)		17,173,911	
総費用 (C)		3,854,874	
費用便益比	$B \div C = \frac{17,173,911}{3,854,874} = 4.46$		

森林環境保全整備事業 標茶町地区 概要図 【北海道】

